

支援先

笠間焼協同組合

## 『純・笠間焼』によるブランド化支援



図 1 純・笠間による食器

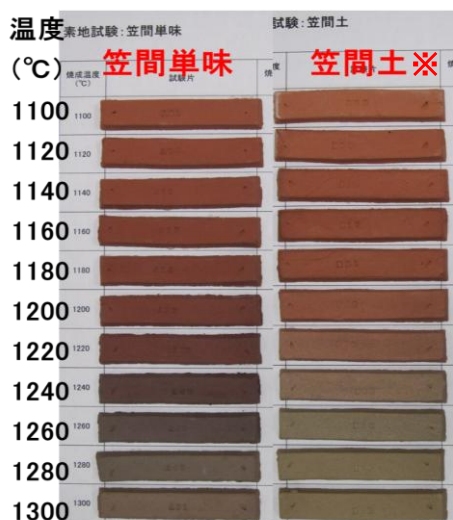


図 2 焼成条件の検討



図 3 陶炎祭での展示販売

### 【開発の背景】

笠間焼は、江戸中期から 240 年の歴史を持つ関東を代表する焼物です。現在では手作りでオリジナルな自由な作風で知られる一方、焼物として産地の「特徴がない」などと指摘されることもありました。

笠間粘土はきめが細かく鉄分が多く粘りが強いいため、ろくろなどの成形には適しており、焼くと備前焼のような濃茶色の作品ができる特徴があります。

しかし、成形や焼成時の収縮が大きいいため、乾燥時のキレなど失敗が生じやすく、扱いに注意が必要です。このため他産地の土を混ぜて使用している場合が多く、笠間粘土の使用割合は全体の 20%程度に過ぎませんでした。

そこで笠間焼協同組合では、「笠間焼ならではの個性や特徴を生み出して販路を拡大しよう」と、2012 年 4 月から当所と協力し笠間粘土のみで焼いた陶器を「純・笠間焼」としてブランド化する取り組みを始めました。

### 【開発の経緯・支援内容】

「純・笠間焼」の開発は、粘土の精製工程や焼成条件を最適化することで笠間粘土の特徴である紫を帯びた茶色の色合と収縮率低減を実現しました。さらに、焼成温度を下げることで約 10%のエネルギー削減効果があり、まさに環境に配慮した今の時代に合った焼物が誕生しました。

- 焼成条件の最適化  
焼成温度を 1250°C から 1220~1230°C に  
還元雰囲気（窯の中の還元ガス濃度）の調整

※笠間土：笠間粘土に他産地粘土をブレンドしたもの

### 【開発した製品の紹介】

開発した商品は多くのイベントや販売店で展示・発表を行いました。「第 31 回笠間の陶炎祭（ひまつり）」では約 60 軒の窯元・作家が、開発した笠間粘土を使い食器を中心として「純・笠間焼」の作品を出展・販売を行いました。

陶炎祭期間中には、これまでで最高の 47 万人（主催者発表）の来場者があり県内及び首都圏からのお客様に多くの好評価を得ることができ、笠間焼の特徴を PR し茨城県の観光産業に大きく貢献することができました。

- 価 格：1,000 円～
- 販 売 先：笠間工芸の丘等の販売店及び各窯元
- 記事掲載：読売新聞他 6 社、(NHK 水戸放送) 他 4 回放送

### 基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費（技術相談）

### 現在の担当部門

|        |       |       |                  |
|--------|-------|-------|------------------|
| 材料技術部門 | 所 長   | 鴨志田 武 | TEL:0296-72-0316 |
|        | 主 任   | 吉田 博和 |                  |
| 工芸技術部門 | 主任研究員 | 常世田 茂 |                  |
|        | 嘱 託   | 佐藤 剛  |                  |